

TEAM
多摩美術大学・デザインチーム

多摩美術大学メディア芸術コースの教員2名と卒業生3名からなる、本プロジェクトのためのスペシャルユニット。メンバーのうち4人は3年次に編入あるいは転学科しており、もう1人も工学部出身という、ハイブリッドな経験を有する特殊部隊。異質な経験と思考、スキルを交錯させることで、モビリティの未だ見ぬ可能性を思索する。

AKIHIRO KUBTA
久保田晃弘
1960年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース教授/メディアセンター所長。衛星芸術プロジェクトARTSATをはじめ、自然知能と美学の数学的構造、ライヴ・コーディングと自作楽器によるライヴ・パフォーマンスなど、さまざまな領域を横断・結合するハイブリッドな創作の世界を開拓中。
@hemokosa

WATARU KAMI
上 航
1990年生まれ。多摩美術大学美術学部情報デザイン専攻修了、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。慶應義塾大学SFC筑康明研究室 特任研究員。近作は「Code of the Revolutionary: PV00」(XHELL inc.)、「BLAME!」(Polygon Pictures Inc.)コンセプトアート、「BrushKnob」(オリジナルバイス)、など。
@wtrkm

MUKI KOBAYASHI
小林 棕
1992年生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。コンセプトアーティスト/デザイナー。近年の主な展覧会に「エマージェンシーズ! 032『盛るところ』」(ICC, 2017年9月12日から開催)、「無ねじらない」(コ本や、2017年)、「ブンするボーコー」(オリエンタルデザインギャラリー、2016年)など。
@aiuebo

SHEEP
ひつじ
1989年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース卒業。コンセプトアーティスト/デザイナー。近作は「Code of the Revolutionary: PV00」(XHELL inc.)、「BLAME!」(Polygon Pictures Inc.)コンセプトアート、「BrushKnob」(オリジナルバイス)、など。
@loveandsheep145

AKIHICO TANIGUCHI
谷口暁彦
1983年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース講師。自作のオフィスやソフトウェアを用いて、メディア・アート、ネット・アート、ライブ・パフォーマンス、映像、彫刻作品などを発表する。個展に「スキシケ」(SOBO、東京、2015)、「渾み出る板」(GALLERY MIDORISO、東京、2015)、「超・いま・ここ」(CALM & PUNK GALLERY、東京、2017)など。2017年9月23日から開催の「Asian Art Award 2017」で新作を発表。
@hikohiko

未来のモビリティは、常に学習しつづける、知能を持った流体だ。

アート、メディア、そして工学…異質な経験とスキルを兼ね備えたメンバーたちが、本プロジェクトのために集結。毎回およそ3時間に渡る熱い議論を繰り返し、回を重ねるごとに深まる考察。新しい視点を持ったメンバーだからこそ生まれる、溢れ出る新しいアイデアたち。

変化し、生成するモビリティは、未来の風景を創造しつづける。

"スペキュラティブ・デザイン"という試みが、今回のプロジェクトを通して多摩美術大学から社会に発信され、顕在化される。車という見慣れたものを、未来の見知らぬモノへと変化させ、イメージを膨らませていく。未来をスペキュラティブしていくと世界が変わる。

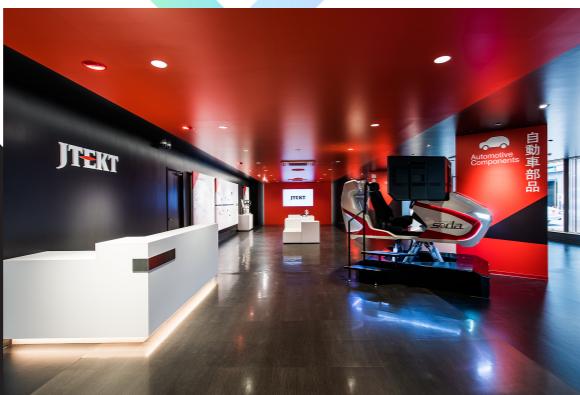
produced by B2ENGINE Inc.

JTEKT ROOM Ginza

ADDRESS 東京都中央区銀座7丁目11番15号 東京JTEKTビル1F
<http://jtektroom.com>

PHONE 03-3571-6212 開館時間 10:00~17:30 休館日 原則土曜・日曜





JTEKT 出展中!
TOKYO MOTOR SHOW 2017
►東京ビッグサイト 2017 10/27-11/5
JTEKT ブース:E 3104

<http://www.jtek.co.jp>

「JTEKT+多摩美術大学=未来のモビリティの可能性」



それでも人は「移動」する。 MOBIVERSE (Mobile Universe)

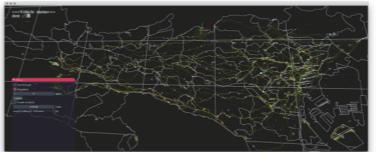
J T E K T + T A M A A R T U n i v e r s i t y

多摩美術大学の「デザインチーム」が50年後のモビリティ社会におけるジェイテクトの「曲がる技術」の意味を二年に渡って思索した。アート、メディア、工学…異質な経験とスキルを兼ね備えたメンバーが、本プロジェクトのために集結。自動運転や相互接続があまりもとなつた未来環境を踏まえつつ、美術大学ならではの表現方法で、ジェイテクトの技術の未知なる可能性と、可動する宇宙「MOBIVERSE」の姿を予言する。

自由自在なユニット

コンパクトなユニットは、個々がステアリング機構と動力機構を持つ。オブジェクトに接続された際、各ユニットは相互の位置関係を把握し、ステアリング担当、駆動担当など、各自が自律的に役割を変化させる。バリエーションがヒトの数だけある、自由自在なユニット。異なるものが接続する度にモビリティはその役割を変え、あなたのためのモビリティが姿を現す。

▼車の移動経路を自律的に生成するシミュレーション



◀ ドライブシミュレーション



http://jtekt-sp.com/mobiverse/
Webでドライブシミュレーション体験と3DデータDLができる

「未来はこうあるべきだ」と提唱するのではなく、「未来ってこうもあらわれるんじゃない?」という、今の世界に違った視点を提示するプロダクトたち。特設Webサイトでは、一足先に未来的モビリティを体験することができる。ドライブシミュレーション体験では、上に乗るものに応じて可変するユニットを、未来的ランドスケープの中で自由に運転ができる。また、この未来のモビリティのミニチュアの3Dプリント用のデータをダウンロードすることができ。また、この未来のモビリティをシミュレーション映像同様に自由に組み合わせることで、可変流動的な未来のモビリティを体験することができる。ぜひ未来に思いを馳せながら楽しんでほしい。

未来のモビリティをダウンロードして楽しむ

**MOBIVERSE
(モビバース)** とは?

Mobile + Universe = MOBIVERSE の「Universe」とは、車やモジュレーターを含めた、その周辺の街、コノニティやヒートなど、全ての「環境」と定義する。未来の世界でも、人々は移動することを楽しむだろう。環境の中にモノがあるのではなく、モノと環境が相互に影響しながらランダムスケープをもたらす。環境の中でも自由に移動しているだらう。と、そんな MOBIVERSE の中で自由に移動しているだらう。